

2020年度山陽学園大学・短期大学事業計画

【山陽学園大学・短期大学】

建学以来受け継いできた教育の基本理念である「愛と奉仕」の精神を基軸に、教育、研究、地域連携活動等をより一層推進するとともに、大学改革の確実な遂行、短期大学3年コースの着実な実施、また、言語文化学科の収容定員の見直し、看護学科の編入学の開設など新たな取組の推進を通じて、大学及び短期大学の活力をより高める。

特に、定員未達の学部・学科にあっては定員充足のためにも、教育の質の向上と学生へのきめ細かな指導を徹底することにより、学生の満足度を高め、学生や地域社会からの信頼を獲得する。

この事業計画は、PDCAによる管理を行いながら推進する。

1 基本方針

- ①学生の満足度を高めるため、学生の向学意欲を喚起し、より高く幅広い知識の修得を目指した教育を実施する。
- ②入学前教育から就職後のフォローアップまで、個々の学生に応じたきめ細かな支援を行う。
- ③全ての教職員が、専門知識の深化を図り業務遂行能力の向上に努めるとともに、学園の円滑な運営と発展に向けて組織的に取り組む。
- ④戦略的な地域連携の推進や広報活動により、学園の認知度を高める。

2 教育目標と実現の方策

(1) 教育目標

これまでの経験が通用しにくくなった時代にあって、新たな課題に対応しながら地域社会の発展に貢献するための専門知識・技能を修得させるとともに、人生を生き抜くための思考力や判断力、そしてコミュニケーション能力などを身に付ける人間教育を実践する。

- ①平素の授業や学生指導を通して、豊かな人間力を養う。
 - ・山陽スタンダードや教養科目の充実、きめ細かな学生指導など
- ②専門知識・技能に加え社会人基礎力を習得させ、即戦力となる人材を育成する。
 - ・アクティブラーニングの拡充、実習の充実、就職支援科目の充実など
- ③外部の教育力も活用し、地域社会に貢献する意識を涵養する。
 - ・地域実践型授業の充実、地域連携事業の推進など
- ④異文化体験を推進し、グローバルマインドを養う。
 - ・学生の海外体験の推進、留学生との交流講座の実施など

(2) 各学科の目標と方策

①学科共通

- ア 教育目標を高く掲げるとともに、授業科目の新設・廃止、必修・選択などカリキュラムや授業内容の不断の検証、見直しを行う。また、成績評価の厳正さと公正さにより教育の質を保証し、学修の成果が学生に実感できる教育を行う。
- イ 3年コースの成功に向けて名称変更の周知や実習をはじめとする授業を着実にを行うとともに、総合人間学部言語文化学科の収容定員の見直しや看護学部看護学科の編入学定員の設定に向けて的確な準備を進める。

②各学科

ア 総合人間学部言語文化学科

- ・海外体験や語学検定などの奨励により、言語能力と異文化理解力の向上を目指す。
- ・観光関連業への就職に役立つ学修内容を取り入れるとともに、収容定員の増加に向けてカリキュラム内容の充実や副専攻の検討を進める。

イ 総合人間学部生活心理学科

- ・初年次教育の充実により、自律的・主体的な学習技能の習得を図り、専門教育への円滑な移行と学修の効率化につなげる。
- ・就職を見据え、認定心理士（心理調査）、社会調査士、保育士の新たな資格の取得を積極的に促す。

ウ 地域マネジメント学部地域マネジメント学科

- ・学生の地域を知り理解する力を育成するため、地域に関わる産業や政策に関する基礎知識を学び、学外での実践を通して基礎力の充実を図る。
- ・地域の産業界や公共団体等と連携し、学生の状況をきめ細かく把握して長期の学外実習である「地域マネジメント実習」を円滑に実施する。

エ 看護学部看護学科

- ・入学前課題図書を課すなどの入学前教育の実施や初年次教育の充実により、専門教育への円滑な移行を図るとともに、1年次から学生が目標をもち、主体的に学修に取り組める環境を整え、国家試験合格率100%を達成する。
- ・実習指導者と連携し、丁寧な指導の実施やエビデンスに基づいた質の高い学生指導を行い、充実した看護実習を実施する。

オ 助産学専攻科

- ・周産期医療に関する幅広い知識と豊かな教養を備え、地域社会の母子保健に貢献できる助産師を養成する。
- ・国家試験対策講座や模擬試験を活用して国家試験合格率100%を達成する。

カ 大学院看護学研究科

- ・院生の積極的な学会参加や学会発表により、看護学の動向や最新の情報を学ばせ、学修内容の充実、教育研究水準の向上を図る。
- ・教員各自が積極的に研究活動に取り組み、種々の領域が協働・協力した研究活動を推進する。

キ 健康栄養学科

- ・学生に達成感と充実感を持たせる教育を行う。このため、教育内容の改善と丁寧な学修指導に取り組み、給食管理と栄養指導に関する知識と実践力を確実に身に付けさせる。特に3年コースについては、きめ細かな学修指導と自由度のある時間割を活用して、調理師資格取得など学生の自己実現を支援する。
- ・進路の選択肢を広げるとともに入学者の増加を図るため、県内の短期大学では唯一となる教職課程（栄養教諭免許2種）の設置を進める。

ク こども育成学科

- ・授業や個人面談を始め、様々な場面での丁寧な対話と指導によって学生の学習意欲と目的意識を高め、現場での即戦力となるために必要な実践力・実務能力を確実に修得させる。特に3年コースについては、時間的な余裕を活用し、幅広い能力や多様な知識を身に付けさせる。
- ・現場の保育者として必要なコミュニケーション能力と子育て支援能力を養うため、ボランティアや地域連携活動を通してそれらの能力を高める。

3 学生募集活動の強化

少子化が加速化する中で定員確保を達成するためには、時代に即応した教育内容の魅力化と多様な学生を受け入れる入試制度改革・学生募集を一体的に進めていく必要があり、学生募集の第一義的責任者である学部長、学科長を中心として全ての教職員がそれぞれの特性と役割認識をもって、総力を挙げて取り組む。

(1) 新入試制度の的確な実施

- ・各学部、学科のアドミッションポリシーに基づき、入学後の学修に適う資質・能力を備えた多様な学生を受け入れるため、学力の三要素を多面的・総合的に評価するものへ改善した本学の新入試制度を高校等に効果的に周知広報するとともに、的確に実施する。
- ・国や他大学等の動向を参考にしながら、不断の見直し・検討を継続する。

(2) 募集活動の工夫等

18歳人口の減少という状況を踏まえ、従来の「顧客」層である高校新卒者だけにとらわれない新しいターゲットの設定など、多様な学生を受け入れるための工夫した募集活動を図る。

① 高校新卒者の受入れ

- ・事前研修を実施し、全ての教職員に高校訪問の必要性和目的を共有するとともに、説明内容の平準化を図り、一人ひとりの教職員が本学の“強み”を共通認識して募集活動を展開する。
- ・言語文化学科の収容定員の増加、新たに開設した短大3年コース、開設3年目の地域マネジメント学部など、時代のニーズに応え、進化している本学の取組を積極的にアピール

ルし、本学のイメージアップと志願者の増加につなげる。

- ・高校生とその保護者に、大学の魅力を体感していただき、出願を促進するためにはオープンキャンパスが極めて重要であることから、全体構成や説明・体験内容の見直し等により、「おもてなし感」や「ホスピタリティ」の向上を図るとともに、広報についても工夫改善を行う。
- ・高校とのパイプの活用や信頼感の向上による出願者の増加に向け、高大連携事業を促進し、連携校数を増加させるとともに、在学生の出身校訪問の奨励などによって特定校からの入学者を増やす。

② 外国人留学生の受入れ

- ・グローバル化を推進する中で、日本語専門学校との連携により、語学力の高い留学生を受け入れる。

③ 社会人の受入れ

- ・社会人のライフスタイルも考慮した短期大学「3年コース」や大学・短大の社会人特別選抜、看護師資格を有する者を対象にした看護学部への編入学定員の設定など、社会人を対象とした入試制度を積極的に広報し、若年社会人や退職者層の入学につなげる。
- ・科目等履修生を募集するに当たっては、退職者や専業主婦に人気が見込める科目を積極的にPRする。

(3) 広報活動の工夫

- ・大学案内・チラシ等の印刷物、新聞広告・TV-CMなどのマスコミ媒体、HP・SNS・ネット広告などのWEB媒体など、多様な媒体を適時的確に選定・活用し、オープンキャンパスへの誘導や学部の取組の紹介などの効果的な情報発信を行う。

4 研究活動の活性化

- ・学内研究補助金制度の活用、科研費や公共団体補助金等の外部資金の獲得により、研究実績を上げる。さらに、学外共同研究の推進に取り組む。
- ・学会誌等に積極的に論文発表することで、教育研究の客観的成果を公表するとともに、パブリシティの活用により広く一般に発信する。
- ・各学科教員の積極的な投稿により、学内紀要「山陽論叢」の一層の充実を図る。
- ・教育内容についても、可能な限り研究成果としてまとめるよう努める。

5 学生支援の強化

アドバイザー、クラス顧問を“持ち上がり担当制”とするなど、1年次から個々の学生とより緊密なコミュニケーションが取れるよう工夫し、前・後期各2回の定期的な面談指導や成績不振者の保護者懇談、適時的確な就職指導を行うなど、本学ならではのきめ細かな個別指導を実施する。

(1) 学修支援の強化

- ・入学前教育、リメディアル教育、初年次教育の充実により、専門教育への円滑な移行と着実な学修を支援する。
- ・学修成果発表の場を増やし、学修意欲やプレゼンテーション能力の向上を図る。

(2) 生活（キャンパスライフ）支援の充実

- ・スポーツや文化活動など学生のサークル活動を支援し、学園の活力創出につなげる。また、山陽学園高校や市内の大学の部活動との交流を推進する。
- ・近隣の高校や自治会等の大学祭への参加を働きかけなどにより、大学祭実行委員会の活動を支援し、大学祭を盛り上げる。
- ・学生の悩みごと相談については、学生相談室が第一義的窓口としての確に対応するとともに、必要な情報は関係機関が共有しフォローアップする。
- ・外国人留学生からの相談等については、共生・グローバル推進センターが第一義的窓口として対応し、必要な情報は関係機関が共有しフォローアップする。
- ・全ての人が障害の有無にかかわらず学園内で自立した生活が送れるよう、「障がい学生支援のガイドライン」に沿った支援を行う。

(3) 就職支援の強化

- ・キャリアセンターと学科アドバイザー等との緊密な連携により、計画的で機動的な就職支援を行う。また、早い段階から就職への意識を高めるための「就活塾」や留学生のための「留学生就職ガイダンス」を開催する。
- ・優良企業等の新規開拓を行うとともに、学生のより高い目標へのチャレンジを支援し、就職内容の質の向上を図る。
- ・就職に有効な資格取得を奨励するとともに、学生の就活意欲と目標レベルをさらに高めることができるよう、就職支援科目の充実を図る。
- ・職場訪問やアンケート調査の実施などにより、卒業生の実態把握とフォローアップを行うとともに、企業との関係強化に努める。

6 地域連携の推進

(1) 公開講座等の拡充

- ・大学がもつ教育資源を地域社会に還元するとともに、地元平井学区地域づくり会議との連携の推進や山陽学園のPRも意識して、公開講座等を積極的に実施する。

(2) 地域との連携事業の推進

- ・ボランティア支援・地域連携推進センターを核として、協定自治体をはじめ市町村等と連携した調査研究や連携事業を積極的に推進する。

(3) ボランティア活動の推進

- ・ボランティア登録制度の普及とともに、ボランティア情報を学生に効果的に周知する。
- ・部活単位でのボランティア活動を積極的に奨励する。

7 施設整備

- ・効率的な学修を支援するため、映像・音響設備など講義用機器の的確な更新を推進する。また、安全で快適なキャンパスライフを過ごすことができるよう、樹木の管理、トイレ改修、照明機器の更新などの環境整備を行う。
- ・建物の耐震化、バリアフリー化について総合的な観点から検討し整備を推進する。

8 大学運営の強化

組織的な大学運営を行い、教育方針の周知や危機管理の徹底を図るためガバナンスの強化に努めるとともに、本学のブランド力向上と学生確保に向けて広報体制を強化する。

(1) ガバナンスの強化

- ・学内の会議体（合同会議、教授会、学科会議、各ワーキンググループ会議等）を円滑に運営し、決定事項を組織内で共有し、その実現のためそれぞれの構成員は役割を果たす。また、時々の課題にタイムリーに対応できるよう機動的な開催に努める。
- ・地震、火災、風水害等不測の事態については、「山陽学園大学・山陽学園短期大学危機管理規程」及び「山陽学園大学・山陽学園短期大学リスクマネジメントガイドライン」に沿って対応するとともに、定期的な訓練を行う。
- ・ハラスメント等の防止、各方面からの苦情・意見等への対応など、基本的人権に関わる諸問題に迅速かつ的確に対応する。
- ・個人情報等の漏洩や外部からのサイバー攻撃、ソーシャルメディアの利用によるトラブル等に対応するため、情報セキュリティ対策の強化や教職員の啓発に努める。

(2) 広報活動の強化

- ・大学広報室を中心として、組織的な情報発信とマスメディア対応を行う。
- ・パブリシティを有効活用するため、マスメディアに取り上げられることを意識して情報提供の工夫やアフターフォローを行う。
- ・ホームページへの情報掲載は、タイミングを逃さず、写真や図表を活用するなどビジュアルの工夫に努める。
- ・公式・公認 SNS を活用することで、若年層に効果的な発信を行う。
- ・山陽学園の校章やスクールカラーなどをあらゆる機会において前面に出すことを意識する。

(3) 教職員の資質向上

- ・全ての教職員は様々な機会を活用して自己研鑽に努める。
- ・前向きで円滑な大学運営に資するため、計画的な FD・SD 研修を実施するとともに、各部長等は所属教職員の学内外における研修機会を確保し、計画的な人材育成に努める。
- ・学外訪問者等の本学に対する好感度を高めるため、全ての教職員は別に定める「Sanyo Heartful Act」を実践する。

【短期大学附属幼稚園】

1 教育目標

自然に恵まれた環境を活かして、心身ともにたくましく、心豊かな子どもを育てる。

- ・思いやりのあるやさしい子ども
- ・根気強く頑張る子ども
- ・考えて行動する子ども
- ・健康で笑顔が輝く子ども
- ・自分のことは自分でする子ども

2 教育の充実等

- ・豊かな自然との関りを通して好奇心や探求心を育むとともに、園の継承活動であるオペレッタ等を通して豊かな感性や表現力を育む。
- ・大学や地域、家庭、ボランティアなどと連携した多様な学びの場を通して、園児に心の通う人間関係の素地を養う。
(大学との連携) 歯磨き指導、手洗い指導、英語教育、保護者向け講演会など
(地域等との連携) お茶会、陶芸、餅つき、野菜作りなど
- ・新学習指導要領に位置づけられた英語学習を大学と連携して充実し、特色教育の一つとする。
- ・「クラス便り」の充実や家庭・地域と連携した活動の実施により、園の教育内容の発信に努める。
- ・幼保連携型認定こども園への移行を視野に、満3歳児保育、預かり保育などを進める。
- ・教員の専門知識・技能を磨くため、計画的な研修を実施する。

【 数値目標 】

【定員の確保】				
1. R3年度の入学定員を100%確保する。	大学	(H29) 76.5%	(H30) 105.5%	(H31) 100.5%
	短大	(H29) 64.4%	(H30) 60.6%	(H31) 71.7%
2. 志願者数の合計を10%増やす。		(H29) 434人	(H30) 511人	(H31) 602人
3. 志願度の高い総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学を70%以上確保する。		(H29) 50.5%	(H30) 55.0%	(H31) 65.3%
4. 山陽学園高校からの入学者を50人以上確保する。		(H29) 34人	(H30) 45人	(H31) 45人
【教育の充実】				
5. 中途退学者・除籍者の割合を3.0%以下にする。		(H28) 4.8%	(H29) 5.3%	(H30) 3.1%
6. 全学生のGPA平均値を2.4ポイント以上とする。 ※GPA値 = (授業科目の単位数×授業科目の評価点) / 授業科目の単位数		(H28前) 2.3 (H28後) 2.4 (H29前) 2.4 (H29後) 2.3 (H30前) 2.3 (H30後) 2.3 (R1前) 2.4		
7. 学生による授業評価が3.9ポイント以上の授業の割合を90%以上とする。(専任教員の授業)		(H29前) 79.7% (H29後) 80.5% (H30前) 94.5% (H30後) 84.7% (R1前) 81.5%		
8. 学修成果発表の機会を各学科で2回以上設定する。		(H29) 言語4回、生活3回、 (H30) 言語1回、生活1回、	— 看護3回、食栄7回、 地域1回、看護2回、食栄1回、	幼教2回 幼教1回
9. アンケート調査により、「教育内容について満足している」と回答する学生が80%以上になるようにする。		(H29) 51.5%	(H30) 57.2%	
【資格取得の推進】				
10. 看護師国家試験の合格率100%を達成する。		(H28) 88.6%	(H29) 100%	(H30) 90.8%
11. 保健師国家試験の合格率100%を達成する		(H28) 88.9%	(H29) 80.0%	(H30) 35.3%
12. 助産師国家試験の合格率100%を達成する。		(H28) 100%	(H29) 100%	(H30) 100%
【希望する就職の実現】				
13. 全ての学科で就職率を100%にする。		(H29) 言語100%、生活100%、看護100%、食栄100%、幼教100%		
		(H30) 言語100%、生活100%、看護100%、食栄100%、幼教100%		
14. 専門職への就職率を80%以上にする。[食栄]	(H28) 67.2%	(H29) 77.8%	(H30) 76.1%	
専門職への就職率を95%以上にする。[幼教]	(H28) 86.9%	(H29) 96.4%	(H30) 82.4%	
【研究活動の活性化】				
15. 外部資金(科研費等)を15件以上獲得する。		(H28) 8件 7,613千円	(H29) 9件 4,976千円	(H30) 9件 7,467千円
16. 全ての教員が論文等の発表1件以上又は学会発表1回以上を行う。		(H29) 言語10回、生活18回、 (H30) 言語12回、生活15回、	— 看護37回、食栄12回、 地域28回、看護65回、食栄14回、	幼教9回、大学院4回、助産9回 幼教35回、大学院11回、助産4回
【地域連携・地域貢献の推進】				
17. 地域との連携事業を50件以上実施する。			(H30) 45件	
18. 学生のボランティア参加人数を延べ500人以上とする。			(H30) 516人	
【その他】				
19. パブリシティによる情報発信を年間150件以上行う。		(H29) 140件	(H30) 149件	
20. 図書貸出冊数を学生一人当たり15冊以上とする。		(H28) 14.9冊	(H29) 14.0冊	(H30) 12.1冊